

お茶講座研修レポート

- 講師 志村 宗恭先生
- 受講者 34名
- 研修名 K-iTG 茶道講座
- 研修期間 2025年8月3日(日)
- 研修内容
 - ・志村宗恭先生の講話
 - ・本格的な茶道薄茶の体験(裏千家)
 - ・水屋と茶室の見学
 - ・外国人向け茶道体験の英語通訳デモ
 - ・抹茶を点てる体験

茶の湯の歴史

はじめに、志村先生より茶の湯について教えていただきました。

日本のお茶栽培は、臨済宗の開祖・栄西禅師が東脊振村の山腹に種を播いたことから始まります。これが、日本三大銘茶と呼ばれる宇治茶や静岡茶にも繋がりました。ブランド名や産地表示に影響され、無意識のうちに誤解していましたが、実は私の身近なところにお茶の文化の起源があることに気づきました。



鎌倉時代に禅宗とともにお茶の文化が武家社会に広まり、室町時代には村田珠光により侘び茶が形成されました。江戸時代には身分に関係なく、教養の一部として茶道が浸透し、時代の変遷とともに形を変えながら今も私たちの生活の一部として根づいています。また、茶道を体験することはできてもその所作一つひとつに込められた思いや意味を、海外の方が深く理解することは決して容易ではありません。

講師である志村様の言葉に耳を傾け、熱心に学ばれているガイドの方々のお姿を拝見し、日本文化が世界へと広がっていく、その一端を目の当たりにしたように感じました。

茶室という宇宙空間

お茶室に足を踏み入れるという貴重な経験を通じて、日本文化の奥ゆかしさと空間の美しさを感じることが出来ました。お茶室はその構造やしつらえから、宇宙を感じられる場所と目されています。わずか4畳半という限られた空間に、木・火・土・金・水といった陰陽五行の要素が反映されています。たとえば、水は茶窯の水、火は窯を温める炎、土は茶碗や床の間の花入れに見立てられます。

これらのお茶の道具や人が調和することにより、お茶室は時間や身分、あらゆる境界を超えた宇宙空間を体現します。お茶室見学は限られた時間でしたが、心の静寂が生まれ、自分の内に向いていた意識が自然と開かれていくのを感じました。



掛け軸と季節感

お茶室を構成する掛け軸は、季節に応じた言葉が選ばれます。夏は涼を感じさせるものが多いようです。今回の講座では、「滝」という文字が書かれた掛け軸が飾られていました。滝を上る船を表現したもので、その筆勢は、崖の上から勢いよく水が落ちるように迫力がありました。



最後は主菓子と薄茶を皆さんで楽しみました。実際にお茶をたてて飲むまでの一連の所作を拝見し、それぞれの所作の意味を学びました。例えば、左手の上で2回時計回りに回し、飲み終えたら指で飲み口をぬぐい、2回反時計回りに回す動作があります。これは、お茶碗の美しい面を相手へと示すことで敬意を示しています。「もてなす側」も「もてなされる側」が互いに敬意を示しあうことでお茶が成り立っていることが分かりました。また、お茶は単に楽しむ場だけではなく、内なる自分、周囲の人、地球そして宇宙とのつながりを感じる時間であると感じました。